

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	めいじがくえんちゅうがっこう・こうとうがっこう					②所在 都道府県	福岡県
27～31	① 学校名	明治学園中学校・高等学校						
③対象学 科名	④対象とする生徒数						⑤学校全体の規模	
	中学校			高等学校			計	併設の中学校を含め、全 校生徒を対象とする。
	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
普通科	202	196	214	207	232	231	1282	
⑥研究開 発構想名	社会の変革に寄与するグローバル・リーダーの育成カリキュラム							
⑦研究開 発の概要	<p>「グローバルキャリア教育」で知識と意識を高め、生徒自らがテーマを設定する「課題研究」を実施することで、グローバル・イシューの解決に資する技能を習得させる。加えて、「グローバル英語Ⅰ・Ⅱ」を通じ、実践的な英語プレゼンテーション能力・英語コミュニケーション能力を育成するためのカリキュラムを開発する。</p>							
⑧研究開 発の 内容 等	⑧ -1 全体	<p>(1)目的・目標</p> <p>【目的】本校の位置する北九州市は、本校の創立者の一人である安川敬一郎など多くの企業家を輩出し、さまざまな産業を育んだ歴史をもつ「ものづくりのまち」である。また、経済協力開発機構（OECD）のグリーン成長モデル都市にアジア地域で初めて認定された環境再生都市でもある。本校では、特にこのまちの産業界で育まれた人材育成に関する教育的資産を活用し、グローバル・リーダーを育成するカリキュラム開発を行う。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来グローバル社会に主体的に関わる動機を与え、グローバル・イシューの解決に資する技能を習得させ、自らがコアとなって多文化の人々と協力して、社会の変革に寄与できるタフな人材を育成するカリキュラムを開発する。</li> <li>2. グローバル・イシューを英語で学び、要約や説明ができ、意見を述べるといった英語の実践的なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけさせることで、スーパーグローバル大学等の大学教育の水準に適応でき、国際社会において実用可能となる英語力のベースを育成する。</li> </ol> <p>(2)現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>平成25年度までのSSH指定校としての6年間の取り組みで、課題研究が生徒の「失敗に対する柔軟性」や「意味理解志向」といった意識の変革に有意性をもつことがわかり、平成26年度はSGHアソシエイト校として、高校1年生全員と高校2年生の希望者に対し課題研究を実施している。しかし、課題研究に取り組みさせるにあたり、私たち教師が時間をかけて準備できなかったこと、また、高校1年生の生徒がグローバルな視点で自分の将来を考えることが出来ないこと、さらに自分の主張を的確に且つ説得的に伝える手段である論文やプレゼンテーションの技能が十分に育成されていないことが明らかになった。</p> <p>さらに、長年英語力の育成を目指した英語教育を行ってきて、自らの興味関心に沿って英語でプレゼンテーションやスピーチを行うことや、自身の生活や将来と直接関係する現代社会の問題について英語の授業で取扱う機会をなかなか設けられなかった。</p> <p>これらの現状を踏まえた上で、以下の2つの仮説を立てる。</p> <p>仮説Ⅰ： 中学3年次の「グローバル教育入門講座」と高校1年次の「グローバルキャリア教育」（学校設定教科）を実施することでグローバル・イシューへの理解を深め、将来の進路選択の中で、その解決にむけて関わりたいという動機をもつ。高校2年次の「課題研究」で自ら設定したグローバル・イシューに関するテーマに基づいて研究を進め、論文やプレゼンテーションの技能が習得できる。</p>						

	<p>仮説Ⅱ： 学校設定科目「グローバル英語Ⅰ」「グローバル英語Ⅱ」において、基礎的な英語表現力の育成に加え、「グローバル教育入門講座」や「グローバルキャリア教育」と関連が深い内容を英語で学び、自分自身の考えを述べる、他者の意見を聴く機会を与える。そのことで、従来よりも多くの生徒がグローバル・イシューに関する実践的な英語コミュニケーション能力や英語プレゼンテーション能力を身につけることができる。</p> <p><b>(3) 成果の普及</b>  学校説明会や文化祭等で成果を発表し、活動報告を通信として、地域の小中学生に発信する。また、月に1回以上は取組を本校HPで報告する。さらに連携先の研究の一助となる。</p>
<p>⑧ -2 課 題 研 究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b>  平成27年度は、平成26年度に実施した「課題研究」を発展継続する形で、以下の4つのテーマについて「課題研究」を実施する。同時に平成28年度以降の新たな「課題研究」のカリキュラムの構築を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>『海外支援計画の策定』  グローバル・イシューに関して、単なる問題理解に留まらず、望ましい開発のあり方を途上国の人と一緒に考え、共に生きていける公正な社会作りを目指す。</li> <li>『ソーシャル・ビジネスによる社会変革の可能性についての考察』  ソーシャル・ビジネスの代表例として、フェアトレードを取り上げ、欧米諸国に比べて非常に低い日本のフェアトレード認知度の向上を狙い、自分たちが活動する地域に普及させる方法を考察する。</li> <li>『これからのビジネス社会で求められるグローバル人材の育成』  北九州市に本社を置くグローバル企業(株)安川電機と連携し、国際情勢を理解し、グローバルビジネスの舞台で起こり得る諸問題に取り組む。</li> <li>『国際海洋教育』  四方を海に囲まれる日本において、海は資源・物流・安全保障などさまざまな観点において重要である。本校は、資源問題・領土保全問題を含む幅広い国際海洋に関する研究に着手する。将来は、全国海洋教育サミットでの論文発表を目指す。</li> </ol> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b>  平成27年度は、高校2年生の希望者に対し「課題研究」を実施する。同時に、高校1年生全員に対し「グローバルキャリア教育」を実施し、国際社会への意識の涵養を図る。各課題研究のテーマに関し、参加生徒のアンケートや、レポートや論文、発表のための資料等により、意識の変容と技能の習得状況について検証評価する。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b> なし</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b>  英語能力の向上を目指し、学校設定科目「グローバル英語Ⅰ」「グローバル英語Ⅱ」を設定し、現代世界の諸問題について、英語での円滑なコミュニケーションや、意見発表、ディスカッションができる生徒を育成するカリキュラムを構築する。  高校1・2年生を対象とし、原則英検の習得級別の習熟度別クラスにすることで、レベルに応じた授業を展開する。特に上位クラスには高大が連携する授業を受講させる。授業を通して得られるレポート等の成果物のほか、外部資格試験等の合格者数等で検証評価する。</p> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b> なし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程外の取組内容・実施方法</b>  SGH活動に取り組む中、連携を図る企業や大学等を通じて積極的に取り組み、国際的に開かれた学園を目指す。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>平成25年度までの6年間SSH指定校として活動した。平成26年度はSGHアソシエイト校として、本校の構想に基づき課題研究をはじめ様々な取組を実施し、課題研究が生徒の意識の変革に有用であること、課題研究の基盤として、基礎学力をしっかりと育むことが肝要であることを認識した。また、国際バカロレアのMYPプログラムの導入に向けて、本校ではどのような形で実施できるのか、実践校の視察などを通じ研究している。</p>

ふりがな	めいじがくえんちゅうがっこう・こうとうがっこう					指定期間	27～31
学校名	明治学園中学校・高等学校						

## 平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							30人
	SGH対象生徒以外:		人	20人				20人
目標設定の考え方:「グローバルキャリア教育」、「課題研究」を推進することにより増加する。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							15人
	SGH対象生徒以外:		人	10人				20人
目標設定の考え方:長期休暇を利用した短期留学をする生徒が、「グローバルキャリア教育」を推進することにより増加する。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							50%
	SGH対象生徒以外:		%	20%				25%
目標設定の考え方:グローバル社会に対する意識の涵養を行い、SGH対象生徒について大幅に増加する。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							20人
	SGH対象生徒以外:		人	6人				
目標設定の考え方:併設中学の探究活動設定による成果が期待できる。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:			30%				40%
目標設定の考え方:現在、卒業時に30%の生徒が達成している。英語のスキルアップの取り組みにより増加する。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方:								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標									
		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:								60%
	SGH対象生徒以外:		40%						50%
目標設定の考え方: 本校の重点目標、事業計画により達成する。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:								3人
	SGH対象生徒以外:		0人						1人
目標設定の考え方: 併設中学時よりSGHの活動とMYPの教育を実施し、海外大学進学への道をひらく。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								50%
	SGH対象生徒以外:	-	-						
目標設定の考え方: 多様な課題研究のテーマに取り組むことで、進路との結びつきを計画する。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								70人
	SGH対象生徒以外:	-	-						50人
目標設定の考え方: 課題研究での体験が、大学進学後にも活かせるように計画する。卒業後も追跡調査を行う。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	0人						15人
	目標設定の考え方:平成28年度からの課題研究を推進することで増加する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	8人						50人
	目標設定の考え方:課題研究を受講する生徒の50%の研修参加を計画する。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校						2校
	目標設定の考え方:海外の姉妹校、課題研究の連携大学の支援を得て、複数の地域の大学との連携を図る。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	20人						100人
	目標設定の考え方:各課題研究ごとに、2,3人複数回を計画している。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	40人						60人
	目標設定の考え方:JICA等国際機関、連携する企業、行政を通しての参画を計画する。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	0人						30人
	目標設定の考え方:課題研究の成果を問うために参加者数を増す計画を立てる。3年目には、各課題から複数生徒を参加させる。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	人	0人						5人
	目標設定の考え方:今後、受入れの体制を整備し、受け入れる人数を増やしていく。							
h	先進校としての研究発表回数							
	回	0回						3回
	目標設定の考え方:3年目に3年間の課題研究の成果を発表する。1・2年目はその準備期間として計画する。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	目標設定の考え方:3年かけて整備する。初年度は学校の概要等の整備を行い、順次整備していく。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)			650	620	610	600	600
SGH対象生徒数			250	270	270	270	270
SGH対象外生徒数			400	350	340	330	330